廿五日夕刊

磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四番地
編輯兼發行人　岡田弘
印刷人　[illegible]
印刷所　[illegible]
發行所　磐城時報社
一部金弐錢　一ヶ月金[illegible]
廣告料一行（十四字詰）金五十錢
▲日刊（月曜、祭日）休刊

自轉車や車の税金
明年度から高くなる

平町に於ける縣税營業税雜種税附加税は明年度から多少税率を引あげらるゝ事になつたが、直接一般が關係するものは年税を納むる雜種税で即はち荷車、自轉車、リヤカー等の税金で從來は自轉車税は縣税四圓、附加税三圓五十六錢、合計七圓五十六錢であつたのが明年度から七圓九十六錢、車税は縣税三圓附加税二圓六十七錢、計五圓六十七錢であつたのが五圓九十七錢となるわけである。又物品販賣業者の税金も値上げされた。

高木町長
遂に辭職

石城郡湯本町では町長高木巳之吉氏の排斥騒ぎから紛擾を續け後期町税戸數割の如き二月に入つても徴税令書を發する能はず町財政逼迫してゐたが、高木氏は此程辭表を提出し退職したので町會ではこれを承認し當分の間町長は缺員とする事になつた

無産黨と
常磐炭礦

常磐地方に於ける各炭礦では今回の總選擧に當り無産各派代議士の出現に對し今後勞働爭議等の場合に如何なる影響を招徠すべきかに關しそれ〴〵考慮の結果、無産各派は比較的現在の野黨たる民政黨と提携結合すべき性質多分なるを看取し心竊に同黨に於て多數を制するを祈念してゐたもの、如くであつた事實は期待に反し野黨割合多數を占むるに至つたので無産各派八名の勢力は未だ以て知るべからずとするも之と呼應して地方選出民政黨代議士がその去就を決するが如き場合あらば會社側にとつて或る程度の影響は免れ難いものがあるといふので會社內外の一部有識者は今度この方面の動きに對し極めて神經過敏な觀察を拂はんとしつゝあるの情勢にある、一面無産黨代議士の去就はしばらく云はずとするも昨春同地方に於ける爭議當時の實情に徴し地方選出民政黨代議士の此問題に參與する場合ありとするも其れは左程深刻なるものではあるまいと觀測しつゝある向きも少くない。

家屋は倒潰し
遂に死者を出す
大暴風の被害
當局で詳細調査中

昨報—二十四日朝來の大暴風のため午後に至り常磐線龍田、廣野間の列車全く不通に陷つたがその後風速は再び加はつたので遂に午後七時半頃まで旅客貨物各列車とも不通となつた、午後三時頃には木戸、龍田間の鐵橋が危險に陷つたため消防手、青年團、在郷軍人等出動し警戒を行つた。當日の客車は岩沼町竹駒稲荷神社參詣の客で增車した程であつたため一層の混雜を呈した。暴風被害のうちで判明したものは廣野村地內で人家六戸倒潰、富岡驛貨物倉庫及び大野驛待合室倒潰した外人家の傾斜したもの無數で刈野村五十嵐英吉（六四）は家屋の下敷となり慘死した。又廣野驛構內にある廣野炭礦の貯炭場は崩壊損害五萬圓、午後五時頃には川前村の山林から發火した、平警察署では各驛並に關係警察署と協力して調査中である。

▼各派當選者　政友二一八、民政二一七、實同四、革新三、民衆四、日勞一、勞農二、中立十五、其他二、合計四六六

▲豫算決算委員會　平

町會に於ける豫算並に決算委員は左の如く伏見町長から指命された、委員會は二十六日、二十七日兩日開く筈である。

▲豫算委員　青沼鉾太郎、井上茂作、柏原眞吾、星野清吉、鷹嘴貞衛、岩本重雄、櫻井清大森勇、渡邊貫一、秋原義雄吉田定太郎、諸橋國松、永山義太郎、佐々木龍若、吉田五平

▲決算　阿部唯次郎、佐藤芳松加納五郎、會川卯三郎、荒川淺次郎、松崎菊三郎、佐藤岩次郎、阿部太平、大谷久藏、遠藤林松、丹野榮三郎、森本盛一、野崎滿藏、花澤久一郎阿部政右衞門

「爭議よりは樂だよ」
總選擧の嵐が去つて
一息ついた警察官

少くて一日十ヶ所、多い時には往々十五六ヶ所に亘つて開催された各候補者の頻繁な演說會に對しては候補者はじめ各應援辯士の骨折りもさる事ながら、それよりも一層ひどいのは而も各候補者の當落は左程深刻な關係がないに拘らず每日同じ樣な我黨禮讃の手前味噌と、反對黨に對する痛擊とを聽かされ乍ら朝から夜半迄これが取締の奔命に疲れた警察官諸公で之等は何れも昨今漸く選擧の緣を閉ぢて些か少閑を得疲れ腕を托しながら東奔西走のありし日を愚痴り合つてる態は職掌柄とは云へ眞に氣の毒に見られる節あるが、選擧は昨春警察官として速日奔命に疲れしめた炭礦爭議の如く果して何時になつたら警戒を撤廢し得るか殆ど目當のつかなかつたのに較べ苦しいとは云ふものの先が見へてゐただけ爭議よりは遙に良かつた、とある警官の述懷。

焚火が衣類に移り
幼兒生不動

秋田縣山本郡荷揚場村字松館生れ當時磐崎村大字上湯長谷字梅ケ平居住磐城炭礦小野田礦居住伊藤フジの私生兒伊藤鑫雄（四ツ）は二十一日午後二時半頃焚火にあたつてゐるうち火が衣類に燃ゑ移り見るも悲慘な生不動となつて燒死した。

比佐代議士
當選祝賀會

比佐昌平氏當選祝賀會は二十三日午後五時から湯本町湯本座に開き萩原義雄、野崎、若松、鷲各縣議の祝辭、比佐代議士の謝辭あり盛會を極めた。

歡喜に滿ちた
木村氏の家庭
◆…訪問記

一萬五千票の多數で當選した新代議士木村清治氏を、歡喜に滿ちた大浦村の自宅に訪ふせい子夫人並に娘婿守江氏始め長男正俊、次男貞雄、三男源策各君何れも嬉しさう。せい子夫人は語る「候補者の妻としての惱みは明治四十四年の縣會議員選擧を始めとして前後三回の選擧を味はつて居りますからもう覺悟もきまつて居りましたが、今度の選擧は始めて行はれました普通選擧でもあり殊に衆議院の候補に立つた譯ですからこれ迄何時も當選して來たからとてまるで舞臺も違ひ、どんな結果を見る事かと人樣にはお話も出來ぬ苦勞をして來ました、然し皆樣方の厚い御同情の甲斐があつて夫を代議士として送り出す事が出來たかと思へばこれにました滿足はありません。之れからは皆樣の御同情にむくゆる任務の果せ得る樣働いて貰ひたいと思つてゐます。

爐に墜落し
無慘燒死
癪のため

三阪村字差塩居住千葉縣香取郡伊能村生れ木挽職佐藤辛治（六五）は同村山林內の小屋で內緣の妻かね（五五）と別居してゐたが、二十日午前二時頃爐の中へ落ち慘死したが持病の癪のためであると。

政戰を顧みて
◆…嵐の跡を辿る
（一）　一記者

普選最初の總選擧は無事に濟んだ。石城の天地は、大風一過嵐の後の靜けさに歸り、公園の春もいと長閑である、いざ梅見と洒落こむ前に政戰の跡を辿つて見やう。政友會は前回石城に於て星一氏を擁いで比佐氏に破れ所謂巨星地に墜つの結果を見たし、相、双に於ては政界と財界の大立物松本孫右衛門氏が、一般から萬年候補と見られてゐた佐藤富十郎氏に破れたから第三區濱通りの今回の選擧は石に嚙りついても勝たねばならぬ復讐戰であつた。之がため政友會では候補者擁立に非常な苦心をした。相、双に於ては前回の雪辱戰として松本氏再起は疑ひのない事であつたが、石城には候補者級の人として金成通氏あり、木村清治氏あり、又白井一郎、鈴木辰三郎安島重三郎、井上茂作等何れも相劣らぬ候補級の人物で、その何れを推すべきかについて幹部は少なからず頭を絞つた。その結果讀者も知る通り最初木村氏に白羽の矢を立て金成氏にお鉢が廻り、又逆戻りして木村氏と決したのが一月三十一日、戰ひは機先を制するに如かずとして民政黨に於て未だ豫選會も開かぬ二月一日立候補の屆け出でを了し三日から事務所を開設した。

一方民政黨に於ては、相、双方面に於て前代議士佐藤富十郎氏の再起の野心滿々たるものあり密かに劃する處があつたらしいが、前回に於て飽くまで地ぶくれの腰を折らず遂に氏家滿を退かせてその應援をうけた關係あり、又代議士任期中の實際を見て一般が愛想をつかし甚だしく不人氣であるのに氣づかない程馬鹿な佐藤氏にも非ず結局再起を斷念したので、第三區民政黨の候補者は容易に氏家、比佐の兩氏に決つた事は豫期通りの事であつた。

▲落磐壓死

内郷村大字宮字宮の澤安積郡喜久田村生れ磐城炭礦坑夫大比良〆門（三四）は去る二十日午前三時頃作業中落磐のため慘死した。

映畫界

▼皇恩（一）

明治二十七八年の役に父をなくした陸太郎と勇作と菊子とは貧しいなかに老いた母の手内職の傍ら嚴格な教育を受け名譽の戰死を遂げた死への御下賜金には手も付けず皇恩の無窮に感泣し乍ら平和に暮してゐた。星霜は流れた、貧しい手内職に母親の老いの眼が薄らいて行く頃三人の子供は漸く一人前に成長してゐた、そして三人は揃つて或る工場に兄は事務員、弟は火夫、妹は女工として働いてゐた、母の教へに忠實に働く勇作に引換へて長男陸太郎と妹菊子は次第に奢侈に陷つて行くのであつた、母は涙を以て皇恩の尊きを說き御下賜金を示しては話すのであつたが、陸太郎は遂に家を出て了つた。

時しも明治三十七年二月東亞の空に暗黑は渦巻いた、勇作は皇恩に報ずべく母親の赤誠に勵まされて勇ましく出征した、母は喜びをこめて夫の御下賜金を以て日夜出征兵士を稿ふ恤兵品の製作につとめてゐたが不孝な兄妹は母の言葉を聞かず益々奢侈に流れて遂には汚い工場に働く事を止てしまつた。菊子は或る美容術師に仕へたが母を顧みず美容師と自由結婚をして家出てしまつた、不孝な彼等の仕送りを拒絕した母親は一人苦しい手内職を續け乍ら唯戰地の勇士へ送る慰問袋を作り且は勇作へ激勵の手紙を書き送るのであつた。

乃木將軍の麾下にあつた勇作は二〇三高地へ突進すべく決死隊の一員として奮戰したが傷いた彼が高地の頂に日章旗を立てた時再び一彈にあたつて倒れてしまつた、やがて戰禍も治まりて忠勇なる將卒は萬歲の聲に迎へられて凱旋した、その人混を押わけて迎へる一人の老母は勇作の母であつた、併し勇作の姿は見へなかつた、老母は彼の名を呼び續けながら遂に仆れてしまつた、そして彼女は託兒所に引取られて働く事となつた。

勇作は其頃廣島豫備病院に入院してゐた、彼は戰功により感狀を賜はり金鵄勳章を授けられたその上畏くも御下賜品まで頂いたのであつた。

それから數日の後勇作が懷しい我家へ歸つた時其處には母はゐなかつた、事情を聞いた彼は兄と妹を訪ねた、そしてその不忠不孝を責め兄妹をひつぱつて母の許へ至りその罪を詫びさせた、そして彼は二人を二重橋へつれて行き彼等の皇恩に背いた行爲を心から詫びさせたのであつた（平館）

簡易の金融　堅實と誠意　趣味の貯蓄　共存共榮

大藏大臣免許　磐城無盡商會
本社植田町・支社平町中町
【電話一番・平七六九番】
縣內到る處に取扱所あり何時でも申込下さい
お絕わす會員を募ります

大和田醫院　耳鼻咽喉科
平町南町　電話一七〇番

驚いた!!!
こうまで安いとは
—加納活版所の印刷物!!

醬油と味噌
福島縣平町　山崎合名會社
電話（營業部專用一〇番）（一般用長二七番）
振替東京一九七五五番
東京支店　上野車坂四三
電話下谷五七一二番
振替東京六八三一二番

二葉印刷所
平町字仲町　電話七三四番

謹告
來る二十六日午後一時より平町平劇場に於て政友會木村淸治氏當選祝賀會を開催致候につき左記お含みの上御來會被下度候
一、會費五十錢（當日御持參の事）
發起人一同

牛豚肉特價提供
牛中肉　百匁金三十錢
上肉　同金五十錢
ロース　同金七十錢
ヒレ　同金九十錢
豚中肉　百匁金三十錢
ロース　同金六十錢
食肉の廉賣王　深谷牛肉店
平町停車場前（平劇場入口）　電話五二四番

きゝめで賣れる高貴藥　濟命ピリン
定價廿錢　卅錢　五拾錢　壹圓
◎かぜ◎ネツ◎頭痛◎齒痛◎神經痛◎リウマチスの方よ!!
一時も早くきゝめ第一の本劑を服藥され健康体となられよ
◎有名藥店にあり
發賣元　平研町　水野藥局

最新滋强回春劑　ビーナス
定價（三圓　五圓　拾圓　廿圓）
◎適應症（腦神經衰弱、ヒステリー、生殖不能、陰萎遺精、体力增進、新陳代謝等）
平町專賣所　平町五丁目角　山野邊藥局

セメント　壁用材料　コールタール　ペンキ塗料　板ガラス
磐城セメント株式會社
代理店　西村屋藥舖
平町二丁目　電話三番

◎あこがれの三大映畫上映

◆帝キネ會社作　原作岡正夫　脚色高木秀雄　監督深川ひさし
明石鍛郎、賀川清、松枝鶴子、久のあかね、五月秋子、東良之助、坂東豊昇、間英子、吉田豊作　大共演

幕末劍俠陣　維新の風雲兒　**龍馬暗殺**　前篇、後篇　十四卷上映

土州の闘將坂本龍馬は中岡、武市等の勤王同志等と共に思想と主義の為幕臣と戰ひ吉田東洋を斬り其弟子深見左司馬の腕を斬落した英傑が劍血の下に邁進せし大業は輝く

◆勝見庸太郎、マキノ梅太郎、浦路輝子主演
大江戸人情話　**文七元結**　八卷

◆マキノ正博、東鄕久義、杉狂兒、小宮一晃、岡島艶子　特別出演月形龍之助、嵐長三郎、鈴木澄子
學生生活ローマンス　**潮やけ小自棄**　九卷

時代劇あり！支那劇あり！ジャズあり！尻振ダンスあり喧嘩あり！芝居好み雨の殺陣あり！に好み次第古今絕無

廿四日より公開料金普通　**有聲座**

▼日活軍劇派特作品　南光明大努力主演　山本嘉一・高木永二・小泉嘉輔・伊藤隆世・瀧花久子・牧君子・市川春衛助演

血涙悲壯　**皇恩**　全

▲明治、大正の聖代を經ていまや昭和のみ代さかり御いつの輝きと共に皇國益隆盛に赴かんとするに際し、我大日本帝國の精華さ皇恩の無窮なるを讃へ奉りて製作せられたる本映畫こそ異境の野に忠骨を埋めてゆう魂再び還らざる勇士達の叫びである……

それからそれへと展開する哄笑諧謔・速力の大喜活劇
◆名優レイモンドグリフィス氏決死的大冒險主演

映畫冒險大喜活劇　**極樂突進**　全

▲疾風の如く砂煙もう〳〵爆音ごう〳〵として走る…オートバイの數實に二千台、全身の血潮逆流せんとす、懸鷲の狂へるが如く疾走する痛快さ方に壯絶か快絕か此の映畫を見る人のみに與へられたる此の大なる歡喜と感激…見よ

▼松平鶴之助入社第一回努力主演大雄篇　櫻木梅子・澤蘭子・磯川元春・高木永二・市川百之助　日活時代派本年度大作

健國史大劍　**神文**　全

▲「鉢こりて守れ宮人九重の、御階の櫻風そよぐなり」高山彥九郎死して五十有餘年移り變る時勢は更に幾多の彥九郎を出したが今や王政復古の祭涙を聞く時殿上の身なりさはず浪人とかり變名をして筑紫龍之助風雨五年の永物に心膽を練り薩長土肥の連衡を圖る堀川侍從岑方朝臣の身邊にはたえず密吏の御用提灯はうかゞつてゐた

廿四日替り　土・日曜學生デー　常設高級映畫　**平館**　電四六六